みどころいっぱい！ 野辺地町

⑨ 歴史満喫おすすめスポット

1 のへじ海浜公園 十符ヶ浦海水浴場

① 十符ヶ浦の碑

「十符」はこの地に産したスゲを十節に編んで作った敷物からきている語で「符」は編み目の意。昔、この辺の海辺にはスゲが繁茂し、そのスゲを使って敷物を生産、朝廷に献上したと伝えられています。それ以来、この海辺はその敷物にちなみ十符ヶ浦と呼ばれるようになったといいます。 黒御影石製 高さ2.3m、幅1m町制施行100周年を記念し平成9年8月に建立。

また、対岸には下北半島を望み、波穏やかで整備された海水浴場です。温水シャワー(有料)・無料駐車場100台。

② 蒸気機関車 C11-210（野辺地小学校グラウンド）

国鉄C11形蒸気機関車は、日本国有鉄道（国鉄）の前身である鉄道省が製造した過熱式のタンク式蒸気機関車です。Cのチョンチョンという愛称で呼ばれています。

国を代表する蒸気機関車の一つであるC11形は廃車後、全国各地で静態保存となり野辺地でも保存されています。

2 愛宕公園

町民憩いの場所愛宕公園は、明治時代に町を一望できる高台に造られた公園で、桜の景勝地として知られています。

③ 本州最北限にあるエドヒガン（町指定天然記念物）愛宕公園登り口

御膳水に向かって左側にそびえ立つ、樹齢300年を越えるエドヒガンは樹の高さ18m、幹の太さは約5.3mで、地表約50cmの所で二つに分かれています。エドヒガンは、日本の本州・四国・九州や韓国南部・中国中部に広く分布していますが、北東北には数が少なく野辺地にエドヒガンがあるという事は植物学上極めて貴重です。

④ 花鳥号銅像（町指定有形文化財）愛宕公園中腹

明治天皇がこの地に、2回ほど巡幸されました。

最初の巡幸（明治9年）に、現在の役場地内にある行在所に到着すると同時に倒死した御料馬花鳥号の冥福を祈り、愛宕公園中腹に銅像として建てられ、愛宕公園のシンボルとなっています。

⑤ 松尾芭蕉の句碑（町指定有形文化財）愛宕公園北側中腹

文政12年（1829年）に芭蕉を慕う野辺地の俳人たちによって建てられた碑。

「花ざかり　山は日ごろの　朝ぼらけ」の句は、芭蕉が貞享5年（1688年）に桜の名所吉野山で詠んだものです。

⑥ 弁慶の足跡

源義経は平泉から逃れ、青森県外ヶ浜町（旧三厩村）から北海道に渡ったのでは？という伝説がありますが、野辺地町でも芭蕉の句碑の土台石にあるくぼみは弁慶の足跡（左足）だという話があります。

⑦ 石川啄木の歌碑　愛宕公園北側中腹

「潮がをる 北の浜辺の 砂山の かの浜薔薇よ　今年も咲けるや」の歌碑が建ったのは1962年（昭和37年）5月4日です。野辺地にゆかりのある啄木を記念しここに建立されました。

⑧ 中市絶壁の句碑　愛宕公園頂上

明治時代に県内初の活版印刷による俳句同人誌を刊行するなど野辺地は俳句の盛んな地でした。俳人中市絶壁（謙三）は民俗学研究、町史資料の編纂などの数々の業績も残されました。業績を称え句碑を昭和47年10月7日に野辺地市街地が一望できる愛宕公園に「傘さげてみ堂をめぐる夕嵐」の句碑が建立されました。

⑨ 忠魂碑

愛宕公園、園路を登りきった頂上部分に戦没した当町出身者を祀る忠魂碑があり、3つに分けてまつられています。

左より大東亜戦争戦没者、中央部に日露戦争、右側に日清戦争戦没者。

29 愛宕公園と香川県土庄町・大坂城残石記念公園　友好之碑

約400年前、大坂城改築の際に切り出されたものの残された土庄町小海の「残念石（残石）」の一部が、愛宕公園に使われていたことが判明され、友好公園締結となりました。

⑩ 御膳水と愛宕公園石段　愛宕公園登り口

古くから町民に親しまれてきた湧水。明治天皇巡幸の際には、調理用に使われたことから「御膳水」と呼ばれるようになりました。また、園内愛宕神社へと結ぶ階段はその昔、本町の道路に敷かれていた石を用いています。この石は、北前船で香川県の土庄町から搬出された花崗岩です。

⑪ 一里塚（県史跡）

一里塚は、街道の一里（約4キロメートル）ごとに土を盛り、木を植えた道しるべです。旅人にとって道のりを知る目安となり、木陰で休息する場ともなっていました。全国的に整備されるようになったのは1604年（慶長9年）以降のことです。江戸時代の奥州街道（奥州道中）は、七戸町中野で二手に分かれ野辺地町下町で合流していました。中野から天間館・石文・夫雑原・長者久保を通過して野辺地にいたる街道は「本道」「下道」などと呼ばれ、中野から坪・柳平・尾山頭・石坂を通過して野辺地にいたる街道は「坪道」「上道」などと呼ばれていました。ここ坊ノ塚の一里塚は長者久保と野辺地の間にあり、奥州街道に残されている最北の一里塚です。底面の直径は約9メートルで、塚と塚との間には街道のあとが残されています。街道を北上した旅人は、この一里塚を過ぎるとまもなく野辺地湾を望みながら鳴子館坂を下りました。

⑫ 鳴子館坂

その昔、町を一望できるこの場所は、ここまで旅人を出迎えたり、見送ったりしていたそうです。

⑬ 旧大万旅館

旧旅館であったこの建物は、近代木造建築の技術が施されている貴重な建築物です。

1988年にはフジテレビドラマ「飢餓海峡」の撮影場所として使用されました。

なお、建物内の見学は不可となっています。

⑭ 最上徳内の妻 ふでの生家

最上徳内〈宝暦4年(1754年)～天保7年(1836年)〉は、江戸時代の探検家で江戸幕府普請役。出羽国村山郡楯岡村（現在の山形県村山市楯岡）出身です。蝦夷地見分に参加した徳内は、2回目の蝦夷地行きを松前藩に断られ、南部領野辺地に留まり2年間船頭新七の家で算術・読み書きを教えていました。その時に、廻船問屋を営む島谷清吉の娘（ふで）と結婚しました。徳内は、82歳で亡くなるまで数々の公私の仕事をしていました。

⑮ 海中寺 木彫阿弥陀如来立像（県重宝）

浄土宗の寺院、福聚山海中寺の本尊です。装飾的な衣の表現や理知的な表情などの作風から鎌倉時代の制作とされています。一般に黒仏様とも呼ばれています。海中寺は文化14年（1817年）に火災にあい当初の本尊も焼失したことから、大阪伝光寺の道場に祀られていた本像を迎えたと伝えられています。

（公開は3月19日～25日と11月6日～15日で見学希望者は事前に海中寺への申し込みが必要。電話 0175-64-2605）

⑯ 西光寺のしだれ桜（県天然記念物）と北前船乗組員の墓

しだれ桜は西光寺本堂への参道左側にあり、樹木医によれば樹齢は300年を越えており毎春枝に美しい花をつけその風情ある姿が人々に親しまれています。また、西光寺墓地には、北前船での航行の際、海難で死亡された人達や野辺地に滞在中に事故で死亡された人達の墓石があり、現在までの調査では13基確認されています。

⑰ 旧野村家住宅離れ『行在所』（国登録有形文化財・建造物）

現在の野辺地町役場敷地内にある行在所は野村治三郎家の離れで、1876年（明治9年）の明治天皇が巡幸された時に御宿泊されました。

庭園の庭師は旧水戸藩の梅翁が務め、建物は大火で焼失後に同一設計で1890年頃に再建されました。

⑱ 石川啄木ゆかりの常光寺

常光寺の住職葛原対月は啄木の伯父にあたり、また啄木の父(一禎)・母(カツ)が一時、常光寺に身を寄せていたことから、啄木は3回常光寺を訪れています。　■石川　啄木（いしかわ　たくぼく　1886年（明治19年）2月20日～1912年（明治45年）4月13日）は明治時代の歌人・詩人・評論家。本名は、石川 一（はじめ）。

⑲ 野辺地代官所跡地

城内（現公民館地内）にありました。代官はおおむね盛岡直参の藩士が任命され任期は通常2ヵ年程度でした。元々の野辺地代官所の建築年代は明らかではありませんが、建物の配置図は残っています。

⑳ 歴史民俗資料館

縄文時代後期、国内最大級の「板状立脚土偶」をはじめ、北前船の寄港地として栄えた頃の品々や藩政時代の資料などを展示。

休館日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日も）・国民の祝日及び12月29日～1月4日

㉑ 常夜燈（町指定史跡）

文政10年（1827年）に野辺地の廻船問屋野村治三郎によって建てられ日本で現存する常夜燈の中では極めて古いものです。

盛岡藩の日本海航路への窓口として、賑わっていた野辺地湊へ夜間入湊する船への目印となっていました。

㉒ 水神宮

祭神は水波能売神で、浜町全体の氏神として崇敬されています。文化5年（1808年）のある夜のこと、高田屋嘉兵衛が夢枕に苦しげに恨めしそうに立つ水神の夢を見、それをきっかけに五十嵐彦兵衛に水神宮建立を依頼し、水が再び湧き出したという言い伝えがあります。また当時は北前船などの飲料水に利用され重要な水でした。

㉓ 野辺地八幡宮本殿と金刀比羅宮本殿（県重宝）

八幡宮本殿は1714年（正徳4年）の再建。また金刀比羅宮は海上安全の神である金比羅様（こんぴらさま）が広く信仰されてきたことから野辺地の廻船問屋（かいせんとんや）によって1822年（文政5年）に勧請寄進（かんじょうきしん）されたものです。

すぐれた彫刻が各所にみられます。

㉔ 日本最古の防雪原林（鉄道記念物14号指定）

日本で最初の鉄道防雪林。明治24年に全通した東北線が、野辺地付近で雪のため、たびたび不通となったため、本多静六林学博士の提案により明治26年に植林されました。

㉕ 野辺地戦争戦死者の墓所（県史跡）

1868年（明治元年）、旧幕府軍を支持する盛岡藩・八戸藩の南部軍と新政府軍を支持した弘前藩・黒石藩の津軽軍が野辺地で交戦し、津軽軍は29名、南部軍は6名の戦死者が出た事件でした。

墓石の4基には、戦死した津軽軍兵士27名の名前が刻まれています。

㉖ 藩境塚（県史跡）

江戸時代に南部領と津軽領の境界の目印として旧奥州街道沿いに築かれた土盛りの塚です。当時藩境には、番所が設けられ通行人や物資の出入りを取り締まっていました。塚の直径はおよそ10m、高さ3.5mほどで、南部・津軽それぞれ2基ずつあることから通称「四ツ森」と呼ばれています。

㉗ スキー発祥の地碑（国設野辺地まかど温泉スキー場内）

明治37年野辺地の豪商野村治三郎氏は、外国雑誌でスキーを知り、東京の丸善を通じスキー2台を購入し、自ら滑ったことから、当町のスキーの歴史は始まりました。

新潟県・高田のスキー術講習会より7年前のことです。

㉘ 烏帽子岳頂上

標高719.6mの頂上から望む、360度のパノラマは別世界。

北は北海道・下北半島、南は八甲田連峰、東は太平洋、西は岩木山を望むことができます。

3 まかど観光ホテル（温泉入浴）

一羽の鶴が傷をいやしたという伝説や、あの義経が弁慶らと湯浴みをしたという言い伝えがある温泉です。

泉質はカルシウム硫酸塩泉。無色透明で異臭が無く酸度の反応は弱アルカリ性です。

一般入浴　土日祝　11:00～17:00　500円

街かどに立つ標柱を探してみよう！

四戸壮欣氏 寄贈

①御同心丁（御組丁）

江戸時代、この一帯は盛岡藩の同心の屋敷15軒が道の両側に続いていたことから御同心丁あるいは御組丁と呼ばれていました。御同心丁をはさんで道は大きく折れていますが、北から攻撃されたとき、敵が町に一直線に侵入するのを防ぐためと思われます。

②大砲台場跡

大砲台場は、盛岡藩によって安政3年（1865年）に建造され、外国の船に備え大砲が置かれていました。現在の新道は、この工事のために作られた道路です。明治元年（1868年）の戊辰戦争のとき、野辺地を艦砲射撃した新政府軍の船（陽春丸）に対し、藩ではこの台場から反撃しています。

新政府軍の砲撃は50～60発で常光寺の大杉の枝に命中や下町・城内にも着弾しましたがいずれも爆裂はしなかったといわれます。

一方台場からは、17～18発発射し帆柱と船体中央に2発命中し、慌てて退散したといいます。

③蔵町

江戸時代、この一帯には盛岡藩の銅蔵や大豆蔵、野辺地の商人の土蔵や板蔵があったことから蔵町と呼ばれています。蔵に納められた大豆・鰯しめ粕、銅などの南部領内の産物は、北前船によって大坂や北陸などの日本海航路上の湊に運ばれていきました。

④遠見番所跡

江戸時代、この場所には盛岡藩によって設置された遠見番所がありました。江戸幕府は外国との通商や交通を禁止していたことから外国船を発見・監視するために設けられた施設です。

⑤馬門御番所跡

御番所は、江戸時代に盛岡藩によって設置され、人々や物資の出入を監視していました。建物は柵で厳重に囲われ役人が警護していました。この番所から西へ約2kmには南部領と津軽領との境界につくられた藩境塚があります。

歴史民俗資料館 おすすめ展示物

◆赤漆塗木鉢（あかうるしぬり もくはち）（国指定重要文化財）

螺鈿装飾の漆器は向田（18）遺跡（前期末葉約5500年前）より出土し二つの突起の頂部に直径約1.5㎝、スガイらしき巻貝の蓋が、7～8個埋め込まれています。中国最古の螺鈿漆器は西周（紀元前1050～紀元前771）時代の北京市瑠璃河燕国墓（貴族墓）から出土した子安貝を象嵌したものですが向田遺跡の螺鈿はこれより2000年以上古く東アジア最古の事例となります。

◆板状立脚土偶（国指定重要文化財）

板状立脚土偶は1998年に有戸鳥井平（4）遺跡から出土。高さ32・5㎝と、縄文後期前半の土偶としては国内最大級で、立つように作られていることも特徴。両肩には孔が貫通しておりぶら下げるなどして使用されたと思われます。わざと二つに割られ、3個の土器に囲まれるような状態で発見されている。

◆客船帳（町指定有形文化財）

江戸時代の野辺地湊からは盛岡藩の銅・大豆・鰯しめ粕などが積み出され、塩・木綿・日用雑貨などを積んだ多くの船が入船していました。この客船帳は、船宿を営んでいた五十嵐家が扱った船を江戸時代から明治初期まで代々書き継いできたものです。野辺地湊には、どこから船が訪れていたか、どのような物資が運ばれてきたかなどを具体的に示す貴重な史料です。